

科目名称	介護実習（総合実習）
授業コード	BL331
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	4.0
担当教員	藤江 慎二, 松永 美輝恵, 柴野 裕子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>介護保険法に基づく入所施設、障害者総合支援法に基づく入所施設で、25日間の実習を行う。 この実習は介護実習の最終段階であり、将来介護福祉士として専門的な介護ができるように、以下の点を中心に実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程の展開、夜勤実習の体験を通し、個別ケアのあり方や、多職種協働におけるチームアプローチ、福祉・保健・医療の連携について理解を深める。</li> <li>2. 介護過程や生活支援技術を通し、根拠を踏まえた実践の理解を深めるとともに、利用者の尊厳保持や自立支援、利用者の状況に即した実践能力を養う。</li> <li>3. 「総合プログラム」を通して、チームマネジメントと地域における介護実践を学ぶ。</li> <li>4. 自分の課題をもって臨み、課題を解決していくための方法について主体的に学ぶ。</li> <li>5. 介護福祉専門職としての倫理・態度を身につける。</li> </ol>
科目に関連する実務経験と授業への活用	介護福祉士または看護師の資格を取得した後5年以上の実務経験を有する教員が、実務経験を活かして介護実習の指導を行う。
到達目標	<p>本科目は、ディプロマ・ポリシー「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している」「広い視野をもって福祉的課題を見つけることができ、探求することができる」、カリキュラム・ポリシー「社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として必要な知識や技術を得る科目を配置する」に対応し、下記を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション（利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実践）</li> <li>2. 利用者理解（介護過程の展開を通し、一人の利用者の全体像を理解し、ニーズ把握ができる）</li> <li>3. 生活支援技術（利用者に適した生活支援技術について、根拠や知識を理解しながら実践できる）</li> <li>4. 介護過程（一人の利用者に対し、「アセスメント」「介護計画立案」「実施」「評価」まで、介護過程の展開ができる）</li> <li>5. 地域・組織理解（施設のサービス全般ならびに社会的役割を理解できる）</li> <li>6. チームワーク（総合プログラムや変則勤務を体験し、介護職の役割・協働、他職種との役割や連携の実践が理解できる）</li> <li>7. 専門職倫理（利用者の尊厳・自己決定・個性を尊重した実践ができ、プライバシー保護に努めることができる）</li> </ol>
計画・内容	<p>【実習指導担当者】 藤江・松永・柴野</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習時間 200時間</li> <li>2) 実習期間 2024年8/13(火)～9/18(水)のうちの25日間 実習配属先によっては、日程が異なる場合もある。 帰校日は8月24日（土）とする。 8月25日（日）～8月27日（火）は実習後半の準備期間とする。</li> <li>3) 実習内容：介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践（実習前半：1～10日目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要、業務の理解、利用者の生活や過ごし方を知る。</li> <li>・介護過程を学習させていただき利用者1名決定し、情報収集・アセスメントを行う。</li> </ul> </li> </ol>

計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況に応じたコミュニケーションを実践し、個別ニーズに対する理解を深める。</li> <li>・様々な生活場面における生活支援技術を、担当職員の指導を受けて実践する。</li> </ul> <p>(帰校日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前半の状況を共有する。</li> <li>・実習後半に向けて課題を整理し、実習の準備を行う。</li> </ul> <p>(実習後半：11～25日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の介護計画立案・実施を行う。</li> <li>・利用者の状況・状態に応じた生活支援技術を実践する。</li> <li>・利用者の状況に応じたコミュニケーションを実践し、個別ニーズに対する理解を深める。</li> <li>・総合プログラムを通し、チームマネジメントや地域における介護実践の在り方を学ぶ。</li> <li>・実習反省会で介護過程全般の評価・考察、今後の課題を明確にする。</li> </ul>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護老人福祉施設や介護老人保健施設、障害者支援施設など(実習先)の実習指導者の指導のもとに計25日間の集中実習を行う。</li> <li>・自己の実習計画と実習先のプログラムを加味して日々の目標を設定し、実習を行う。</li> <li>・日々の目標を実習指導者に報告し、実習指導者の指導を受けながら実習を行う。</li> <li>・実習記録は毎日書いて提出する。</li> <li>・実習中に帰校日を1回設定する。</li> <li>・反省会を行い、学習のまとめと今後の自己の課題を明確にする。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習自体が体験学習である。</li> <li>・利用者への生活支援を見学・記録し、自らも実践し、振り返っていく。</li> <li>・繰り返し実践をしていくことで、生活支援の技術を身につけていく。</li> <li>・介護過程の展開においても同様で、実践を繰り返しながら、実習を行っていく。</li> <li>・介護職リーターの役割や地域連携の実際などの総合プログラムを実施して、介護福祉実践を多面的にとらえていく。</li> </ul>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習(予習)として、毎回の実習前に「記録2(日々の記録)」に、下記を記載して実習を行う。 (記録時間は0.5～1時間程度) 「本日の実習目標」を設定し、その目標を達成するための「目標に対する事前学習(方法や観察の留意点など)」「実習計画」</li> <li>・事後学習(復習)として、毎回の実習後に「記録2(日々の記録)」に実習内容・考察・明日への課題を記録する。(記録時間は1時間～1.5時間程度)</li> <li>・実習時のまとめとして、反省会の資料作成を行う。</li> <li>・実習終了後に、振り返りシートへの記入や実習記録の整理を行う。</li> </ul>
教科書・参考書	帝京科学大学・介護実習ガイドブック(第3版)
成績評価方法と基準	<p>実習施設評価(20%)、実習記録(25%)、実習反省会の状況(10%)、実習目標の達成(10%)、介護過程の展開(15%)、生活支援技術(10%)、取り組み姿勢等(10%)</p> <p>*介護実習(総合実習)は、200時間の実習時間の出席が必要。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習巡回時と帰校日に、実習記録への指導、介護過程の展開への指導を行う。</li> <li>・実習反省会で、資料へのフィードバックを行う。</li> </ul>
オフィスアワー	Campus Squareを参照。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士国家試験受験資格を得るための指定科目である。</li> <li>・介護福祉士養成課程を履修している者以外は履修できない。</li> <li>・介護実習(展開実習)、介護総合演習、介護過程、認知症の理解、介護過程を単位取得しているか、実習開始前までに開講される授業に3分の2以上出席していなければ、原則として本科目を履修できない。</li> <li>・出席日数や時間数に問題がある場合、実習内容に問題がある場合は、原則として追加実習を行う。</li> </ul>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。</li> </ul> <p>成績評価方法と基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の評価基準に準ずる。但し、代替実習(学内実習)のプログラム内容が確定した段階で、成績評価方法を見直し、代替実習が始まる前に説明する。</li> </ul>